

消防だより



Vol.008

お問い合わせ 上ノ国消防署 ☎0139-55-2071

あなたのお宅の火災警報器、本当に動いていますか？

年末年始にかけ、全国的に死亡火災が発生しています。そのほとんどが、住宅用火災警報器が作動していなかったのがわかっています。

住宅用火災警報器は10年を目安に交換を勧めています。

古くなると電子部分の故障や、電池切れで火災を感知しなくなることがあります。

再度確認を！！住宅用火災警報器！！

10年たったら交換しましょう！！

作動確認のしかた

正常なら以下のように鳴ります。



ピーピーピー
家事です ※



ピーピーピー
家事です ※

ボタンを押しても（ひもを引いても）作動しないときは、以下のことが考えられます。



- ▶ 電池は、きちんとセットされているかご確認ください。
- ▶ それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器本体の故障」ですので、取扱説明書をご覧ください。

また、「電池切れ」や「機器本体の故障」の場合は、速やかに電気や機器本体の交換をお願いします。



どうやって交換するの？

火災警報機はメーカーによって構造や電池切れの際のサイン、電池の種類などが異なります。

ご自分での交換が難しい場合は、家族や電気店、電気工事業者などに電池交換や、年数が経っている場合は、火災警報器自体の交換も含めてご相談ください。

10年たったら、とりカエル。

お宅の火災警報器の話です。



INTERVIEW

まちのひと紹介

第8回

ほし ば 干場

きよやす 清保

さん(字豊田)

『地域の当たり前が生んだ薬草ビジネス』



氏 名：干場 清保
年 齢：83歳
趣 味：ランニング

干場さんは、豊田地区に生まれ、当時豊田地区や早瀬地区にあった日本製鉄の鉱山などに勤め、その傍ら、養鶏などを営んでいたとのこと。

しかし、鉱山の閉山に伴い商工会へと就職すると、仕事上の繋がりから漢方薬などを取り扱っている生薬会社と関わりを持つこととなります。

生薬会社は薬草を煎じた漢方などを取り扱うため、全国各地に自生する薬効植物などを買い付けており、本州の生薬会社から「薬草を納品してくれないか」と言われたのが始まりで、当初は胃腸薬の原料として、夷王山などに群生する花「ゲンノショウコ」を納品し、その後、必要とされる薬草は移り変わり、時にはお灸などに使われる「ヨモギ」を栽培したこともあるそうです。

最近では、防腐効果があることが

ら和菓子などの包みに使われる「クマ笹」も、血圧降下・解毒・健胃作用に優れているといわれているため通年で出荷しているそうです。

こうした薬草ビジネスは費用が少なく済み、高齢でも出来ることから、83歳になる現在でも自分のペースで山を歩き、薬草の採取を行っているとのこと。

また、春先には山菜も採取し、例年札幌のどさんこプラザなど各地に出品し、好評を得ているとのこと。

地元で当たり前存在する草花が必要とされていることに当時は衝撃を受けたという干場さんは、「日常の中にも、求められている価値あるものが存在する。」という考えを常に持ち、それを求める人とどう繋がっていくか思いを巡らせているとのことでした。